

投資事業評価調書(新規)

部課室名	県土整備部土木局 道路建設課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路建設課長 笠岡 良雄 (安倍 茂)	内線	4362 (4374)
事業種目	道路	事業名	事業区間	総事業費	約64億円 (うち用地補償費約19.4億円)
		道路改築事業 国道426号 豊岡バイパス	豊岡市九日市～戸牧		
所在地	兵庫県豊岡市九日市～豊岡市戸牧		着工予定年度	完成予定年度	
			H14年度	H24年度 H16年度部分供用(第Ⅰ区)	
事業目的			事業内容		
<p>渋滞の解消 交通量が多く慢性的に交通渋滞が発生している豊岡市中心市街部の渋滞解消・緩和を図るため、市街部を迂回させるバイパスを建設する。</p> <p>広域的な基幹病院(公立豊岡病院)へのアクセス道路整備 3次救急医療圏域での但馬ブロックにおける兵庫県但馬救急センターおよび3次的機能病院である公立豊岡病院へのアクセス道路を建設する。</p> <p>地域づくりの骨格を形成する道路整備 今後、北伸してくる北近畿豊岡自動車道へのアクセス道路に寄与する道路整備。</p>			<p>道路新設(バイパス建設)</p> <p>全体延長 L=1.48km</p> <p>第Ⅰ区 L=840m(内トンネルL=315m) 2車線+片側歩道 W=6.5(11.0～13.0)</p> <p>第Ⅱ区 L=370m 4車線+両側歩道 W=13.0(25.0～27.0)</p> <p>第Ⅲ区 L=270m(鉄道交差部地下道) 2車線+両側歩道 W=6.5(16.5)</p> <p>交通量;現況 18,800(台/日)</p> <p>計画 Ⅰ区;10,500(台/日) Ⅱ区;18,400(台/日) Ⅲ区;9,900(台/日)</p>		
評価視点					
(1)必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>但馬地域の3次救急医療体制確立のための支援(公立豊岡病院への緊急・救急輸送路の確保)が必要。</li> <li>混雑度(自動車種12時間交通量/12時間交通容量)が1.55と慢性的交通渋滞が発生する中心市街部の改善を図る必要がある。</li> <li>通過交通を市街部から減らすことにより、安全かつ健全な市街地形成ができる。</li> </ul>				
安全・安心の確保					
交通渋滞の解消					
快適な生活環境					
地域の発展を支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>北近畿豊岡自動車道のインターアクセス道路としての可能性</li> <li>豊岡市街部に環状道路が形成されるため都市機能が向上する。</li> <li>地域から早期整備の強い要望あり。</li> <li>市事業と連携して事業を行う(豊岡病院の平成16年度開院に向け、バイパス形成路線の一部となる市道豊岡病院線を整備中。)</li> </ul>				
その他					
(2)有効性・効率性	<ul style="list-style-type: none"> <li>費用便益比B/C=3.21</li> </ul>				
有効性					
代替性	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺に同等機能を有する道路はなく、事業目的達成のためには本事業が必要である。</li> </ul>				
効率性(事業執行環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>第Ⅰ区を部分供用し、段階的に早期効果の発現に努める。</li> <li>市事業との連携により、経済的、効率的に早期事業効果が発揮できる。</li> <li>用地取得等において地元協力体制が整っている。</li> </ul>				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通の分散化、走行速度のアップにより大気に与える影響を軽減できる。</li> <li>周辺は緑豊かな地域であることから、植栽帯を設けるなどの緑のある道づくりを行うとともに、山地部はトンネル工法として環境への影響を最小限とする。</li> </ul>				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> <li>現道であれば、但馬南部地域から公立豊岡病院へはかなり迂回しなければならず、救急医療に対応するためには、平成16年度開院予定の豊岡病院にあわせ、第Ⅰ区の完成(部分供用)を図る必要があり、平成14年度の事業着手が必要である。</li> </ul>				
評価の結果	左の理由				